

239. 我が国における RI による *in vitro* 甲状腺機能検査の現状

—Kit による測定のパラツキについて—

東京大学 第3内科

宮地 幸隆 長滝 重信 内村 英正

池田 齊

Radioimmunoassay 法の確立により、ホルモンの測定が Kit を用いて容易に行なわれるようになった。一方同じ Kit を用いて測定した値にも各測定者によってバラツキのあることが報告されている。今回は T₃ と TSH の Radioimmunoassay についてルーチンに測定を行っている施設から頂いたデータについて Rodbard らによって開発された computer program を使用して分析した結果を報告したい。Radioimmunoassay の標準曲線は横軸にホルモン量を対数目盛で縦軸に count 数を現わすと sigmoidal curve となり、nonspecific binding(d), 100% binding (a) 両者の中点に対応するホルモン量 (c) ならびにその点の slope (b) によって規定される。各施設より頂いた T₃ および TSH Kit の標準曲線において各々、a, b, c, d を computer を用いて計算しどの程度の差異があるかを検討した。同時に、得られた測定値の信頼性についても検討を加えた。a, b, c, d の4つの parameter はほぼ一致していた。また信頼性についてもほぼ良好なる結果であった。

以上各施設より頂いた kit の標準曲線について解析した結果を報告した。